



校長室の窓

令和7年10月27日

学校だより第7号より

先日、新月中学校で開催された地区民運動会にお邪魔しました。月立の各地区から親子で参加し、楽しそうに交流している様子を見て、世代を越えた温かい「つながりの深さ」と地域の力強さを改めて感じました。

特に印象的だったのは、各地区のテント前に掲げられた「地区旗」です。仙台出身の私にとって、長年この仕事をしてきて初めて見る光景でした。気仙沼出身の新城小の校長先生に私の気付きを伝え、気仙沼では当たり前で今まで疑問に思わなかったと驚かされていました。大漁旗を作る職人さんが古くからおり、各地区で制作したものを代々大切に受け継いできたのでしょう。ある地区の方からは、「使い終わったらきれいにアイロンを掛けて保管するんだ」と教えていただきました。その丁寧な心遣いの中に、地域への誇りや伝統への深い思いを感じました。

この「大切に受け継ぐ姿勢」は、本校の教育活動とも深く結びついています。半世紀続く敬老帳や、子どもたちが地域の方々に教わる鹿踊りや神楽は、地域の歴史や文化を学び、仲間と協力して物事をやり遂げる力、感謝や思いやり、自分を表現する力を育む貴重な学びです。

また今月は、低学年児童が地域や保護者の支援を受けて育てたサツマイモを軽トラ市で販売し、上学年児童は鹿踊保存会の方々の指導を受け練習してきた鹿踊りを公民館祭りで堂々と披露しました。これらも、地域の方と関わりながら協力し、責任を持って行動し自分を表現する力を育む学びとして、先の伝統活動と同じ価値を持っています。

職員一同、今後も地域の皆様と手を携え、地域に根ざした学びを通して、児童が地域を誇りに思い、自信を持ってたくましく成長できるよう努めてまいります。来る11月1日のこだまステージ発表会では、こうして地域で育った児童が神楽や合唱合奏、音読発表などを元気に披露します。皆様もぜひ会場の月立小体育館にお越しください。児童の成長の成果をご覧いただくとともに、児童に励ましの言葉を掛けていただければ幸いです。お待ちしております。